

小学校 特別活動 部会

部会長 福智町立伊方小学校 校長 川上 三千夫
実践者 川崎町立川崎東小学校 教諭 柳井 文陽

1 研究主題

高学年児童の学校運営への参画意識を高め、
学校内に話し合い活動を定着させる児童会活動
～代表委員会での話し合い活動を基盤に据えて～

2 主題設定の理由

児童会活動は、その運営を主として高学年児童が行うが、それは高学年になると学校への所属感も高まり、集団的な活動の経験も増し、協力して集団生活の向上発展を図ろうとする態度も身についてくるからである。さらに、運営にかかわらない中・低学年の夢も大切に「全校的な視野」にたった活動も可能になってくるからでもある。

高学年児童がそうしたよさを十分に発揮し、全校児童が協力してよりよい学校生活を築いていくためには、一人一人の児童が「こんな学校にしたい」という夢を持ち、考えを出し合い、お互いのよさを生かし合って実践し、問題を解決していくことが必要である。

そのためには、学級における指導が児童会活動に大きく影響を与えることから、学級活動で自発的・自治的活動の体験を十分味わわせるとともに内容面で児童会活動との関連を図り、学校を運営している実感を味わわせることが必要になると考える。ところが学級活動での話し合い活動の経験が非常に少ないという事実がある。それは学級での話し合い活動を経験させていない担任教師の問題であり、その多くは話し合いをどのように進めていけばよいのか分からないという課題がネックにある。そのため本研究主題を設定し、オーソドックスな話し合いのスタイルを代表委員会を通して学校全体に広げ、代表委員会での話し合い活動を基盤として各学級に話し合い活動を定着させようと考えたのである。

3 主題の意味

(1) 高学年児童の学校運営への参画意識を高めるとは

集団の一員としてよりよい学校生活づくりを行うことであり、学校行事の計画の一部を担当したり、児童会の組織を活用して学校行事の運営に協力したりすることである。

(2) 学校内に話し合い活動を定着させる児童会活動とは

代表委員会での話し合いのスタイルを本校の話し合い活動の基本とし、それを各代表委員や参加している担任がクラスに持ち帰り、クラスでの話し合いを実践し、それを毎月の代表委員会ごとにくり返し実践することである。

4 研究の目標

各学級に話し合い活動を定着させるには、話し合いのオーソドックスなスタイルを毎月の代表委員会の話し合いを通して実際に見せる必要があり、またそれを定着させるには、各クラスで定期的に必ず実践する必要もある。そのため児童会活動と代表委員会、生徒指導との相互関連及び児童会活動と代表委員会活動の指導の在り方を究明する。

5 研究仮説

代表委員会での話し合いの進め方を代表委員会の議長団に指導し、基本的な話し合いのスタイルとして毎月の代表委員会で定期的実践していけば、輪番で参加する各クラスの代表委員及び、学年代表として参加する担任教師に、そのオーソドックスな話し合いのスタイルを伝達できるであろう。また、毎月の児童会目標を達成するための具体的な取り組み方法を各クラスで定期的に話し合うならば、話し合い活動が少なくとも月1回は行われ、児童は話し合い活動の経験を積み重ねることができるであろう。そして、その話し合いの経験が、学級内の諸問題を議題として取り上げる自発的な話し合い活動へと発展するであろう。

6 研究の計画

(1) 特別活動の全体計画

※次ページ参照

(2) 児童会目標と月目標

① 児童会目標

「ひ」とを思いやる子ども＝きまり約束を守り友だちのことを考え行動しよう

「が」つつある子ども＝心と体をきたえ何事もいっしょうけんめいがんばろう

「しっ」かり学ぶ子ども＝自分から進んで勉強しかしこくなくろう

「こ」んき強い子ども＝どんなことでも最後まであきらめず努力しよう

② 月目標（生活目標とリンクしている）

4月	一年生を楽しく迎えよう	10月	本をたくさん読もう
5月	運動会に向けてがんばろう	11月	マラソン大会に向けてがんばろう うがい・手洗いでインフルエンザを遠ざけよう
6・7月	雨の日の過ごし方を考えよう熱中症に気をつけよう	12月	人権の大切さを知ろう
(8月)	平和の大切さを知ろう	1月	寒さに負けず体を鍛えよう 給食の大切さを知ろう
9月	学校をきれいにしよう 学校時間にあった行動をしよう 健康のため生活リズムを整えよう	2・3月	六年生との思い出を作ろう 六年生は、一年生～五年生との思い出をつくろう

特別活動の全体計画（29年度用）

川崎東小特別活動部

児童や地域の実態 ・知的好奇心旺盛 ・活発で外遊びをよくする ・素直で元気がよい・基本的な生活習慣の定着が弱い ・主体的な行動意欲が乏しい ・地域における保護者・児童 同士のつながりが薄い	学校の教育目標 ○ 東小に誇りをもち、自ら考え自ら学ぶ、心豊かで、たくましい児童の育成 ・豊かな学力を身につけた児童 ・社会規範を身につけた児童 ・根拠と体力を身につけた児童 ・愛校心をもった児童 ・地域に貢献する児童	保護者の願い ○基礎的基本的学力の定着 ○主体的に学習する子ども ○主体的に活動する子ども ○思いやりや優しさをもち、心豊かな子ども
---	--	---

特別活動の目標 望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。
--

本校特別活動の目標と目標達成へ向けての本年度の全校での取り組み 望ましい集団活動を通して、学級・学年・全校への所属感や児童相互の連帯感を深め、共によりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、集団の中で自己を生かす能力を養う。 ○朝の会、帰りの会を学級目標達成に向けた活動とリンクさせるとともに話し合い活動を充実させる。 ○異学年との交流の機会を多くもてるような児童集いを工夫するとともに、クラブ活動での異年齢活動を工夫する。 ○学級における学級活動コーナー、児童会活動掲示板、委員会、クラブ活動コーナー等の特別活動コーナーの充実を図る。
--

目 標	学級活動		児童会活動	クラブ活動	学校行事	
	第1学年	第2学年	代表委員会	第4,5,6学年で構成	儀式的行事	
活 動 内 容	学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。 低学年の内容 学級活動(1)；学級活動(2) 20 時間；14 時間 学級活動を単位として、仲良く助け合い学級生活を楽しくするとともに、日常の生活や学習に進んで取り組もうとする態度の育成に資する活動を行うこと。	学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。 第2学年 学級活動(1)；学級活動(2) 21 時間；14 時間 学級活動を単位として、仲良く助け合い学級生活を楽しくするとともに、日常の生活や学習に意欲的に取り組もうとする態度の育成に資する活動を行うこと。	第3,4,5,6学年で構成 毎月第2火曜日6校時(45分) ・児童運営委員会が進行 ・学級代表2名、各委員長 ・各学年より教師1名 ※ 議事が多い場合はミニ代表委員会を対応する (休体み13:10~)	自己の興味・関心を追究し、友達と協力し、異学年の友達のことを考えながら活動しているか、クラブ活動ノート、観察カード「クラブ活動をふりかえって」カード ※担任教師以外に各担当教師と連携を図り、振り返りカードや観察を通して評価するとともに、担当教師は言葉によるそのつど評価に高める	自己の興味・関心を追究し、友達と協力し、異学年の友達のことを考えながら活動しているか、クラブ活動ノート、観察カード「クラブ活動をふりかえって」カード ※担任教師以外に各担当教師と連携を図り、振り返りカードや観察を通して評価するとともに、担当教師は言葉によるそのつど評価に高める	全校や学年の一員として自覚をもち、活動の中で、自己の役割を考え行動しているか。 観察、作文など
	第3学年 学級活動(1)；学級活動(2) 21 時間；14 時間 学級活動を単位として、仲良く助け合い学級生活を楽しくするとともに、日常の生活や学習に意欲的に取り組もうとする態度の育成に資する活動を行うこと。	第4学年 学級活動(1)；学級活動(2) 21 時間；14 時間 学級活動を単位として、仲良く助け合い学級生活を楽しくするとともに、日常の生活や学習に自主的に取り組もうとする態度の育成に資する活動を行うこと。	委員会活動 第5・6学年で構成 毎月第1火曜日6校時(60分) ※設置する委員会(8) ・児童運営・保健・給食 ・メディア・図書・体育 ・環境ボランティア・音楽 ※児童運営と各委員長で構成する児童計画委員会を設置する	※設置する予定クラブ(10~12) ・球技(サッカー、野球) ・室内球技(体育館) ・卓球(東っ子ホール) ・小物、調理(家庭科室) ・パソコン ・イラスト、工作 ・理科	※G Tの活用も視野に入れる	健康的な生活習慣の定着 ・音楽鑑賞会 ・音楽発表会 (学習発表会、輝きの集会) ・人権週間による◎なかよし集会(仮) 健康安全・体育的行事 ・運動会◎・プール開き◎ ・身体発育測定・身体健康診断 ・交通安全教室・避難訓練 遠足・集団宿泊的行事 ・歓迎遠足 ・集団宿泊訓練(5年)◎ ・修学旅行◎・秋の遠足 勤労生産・奉行的行事 ・大掃除 ・グリーンタイム ・入学式準備◎ ・運動会準備◎ ・卒業式準備◎
評 価 方 法	話し合いや係の仕事などを進んで行い、学級・学校生活の向上を目指し、自己の役割を考えながらその解決に努めているか。 学級活動ノート、観察(発表、発言、反応 etc) ※言葉によるそのつど評価と形成的な評価を心がける	話し合いや係の仕事などを進んで行い、学級・学校生活の向上を目指し、自己の役割を考えながらその解決に努めているか。 委員会ノート、観察「委員会活動をふりかえって」カード ※担任教師以外に各担当教師と連携を図り、振り返りカードや観察を通して評価するとともに、担当教師は言葉によるそのつど評価に高める	代表委員や委員会の仕事を責任をもって行ったり、学校生活の向上や友達のことを考えて、自己の責任を果たしているか。 委員会ノート、観察「委員会活動をふりかえって」カード ※担任教師以外に各担当教師と連携を図り、振り返りカードや観察を通して評価するとともに、担当教師は言葉によるそのつど評価に高める	自己の興味・関心を追究し、友達と協力し、異学年の友達のことを考えながら活動しているか、クラブ活動ノート、観察カード「クラブ活動をふりかえって」カード ※担任教師以外に各担当教師と連携を図り、振り返りカードや観察を通して評価するとともに、担当教師は言葉によるそのつど評価に高める	自己の興味・関心を追究し、友達と協力し、異学年の友達のことを考えながら活動しているか、クラブ活動ノート、観察カード「クラブ活動をふりかえって」カード ※担任教師以外に各担当教師と連携を図り、振り返りカードや観察を通して評価するとともに、担当教師は言葉によるそのつど評価に高める	全校や学年の一員として自覚をもち、活動の中で、自己の役割を考え行動しているか。 観察、作文など
	○集団の一員としての自覚を促し自発的・自治的活動が低学年から段階的に進められるようにする。 ○一人一人の児童が所属感や連帯感、成就感や充実感をもてるように活動を工夫するとともに、支持的風土の醸成に努める。特に、自他の「よき」を見つけ、認める活動を取り入れる。 ○高学年においては、学校生活全体に目を向け、高学年としての自覚と責任を果たし、よりよい校風作りに努める活動展開を行う。 ○学級会での役割の呼称は、議長、副議長、黒板書記、ノート書記、集会活動では司会とする。 ○学級目標については、目標を4月中に決定し、掲示を6月上旬を目指し完成させる。	○学級での話し合い活動のお手本となるように代表委員会での話し合い活動を充実させる。 ○代表委員会に見学席を設け、見学予約を受け付ける。(一学年から可) ○「輝きの集会」の提案は、東っ子ホールで行い、代表委員会見学参加者がより多く参観できるように配慮する。 ○異学年との交流を多くもてるような児童集いを工夫するとともに、兄弟学年との活動を工夫する(1&6、2&4、3&5など) ○学校行事への協力を行う 運動会(同会進行)、プール開き、修学旅行 5年前学習、入学式、卒業式、始業式、終業式	○活動内での異年齢構成を工夫する。 個人の活動だけで終わらないように留意する。 ○活動終了時には、必ず4, 5, 6年生が向かい合い振り返りを行う。 (教えてもらったことへの感謝等も忘れずに！) ○クラブ活動ポストを活用し、活動を活性化させる。 ※全校朝会や昼休みを利用して発表の機会を作る。 ※クラブ紹介の際には成果の発表を兼ねる。	○歓迎遠足、運動会、集団宿泊(5年)修学旅行へは、児童計画委員会に積極的に協力させる。 ○運動会は児童会の司会進行を行うことを念頭に置いて計画する。 ○歓迎遠足はワキキキ集いとコラボレーションする。 ○各形式の準備は高学年児童を中心に任せ学校への所属感を高めさせる。○学習発表会、人権週間に合わせて、輝きの集いは文化的行事として各々1時間ずつ時数を確保する。 ○グリーンタイム(単取り)は、8時30分から10分程度、児童が楽しめるシーズン1回程度で行う予定。 ※各行事の◎は児童会活動とリンクさせる	本校や学年の一員として自覚をもち、活動の中で、自己の役割を考え行動しているか。 観察、作文など	

特別活動の内容相互の関連 ・同の内容で身につけた態度が相互に活かされ、学級や学校の生活づくりに参画する態度や自治的能力を層高めるようにするとともに、高学年児童においては、東小の伝統を受け継ぎ、つなぎ、発展させるよう指導する。 ・高学年児童には、下級生への思いやりやリーダーシップを育てたり、中・低学年児童には、高学年へのあこがれを育んだり異年齢集団による効果的活動を工夫する。【児童会集会活動、運動会等の各行事、方面登校等】 ・特に四年生においては、次年度、高学年になることへの自覚と委員会活動参加を見通して、集会や行事の際、5,6年生の働きや下級生への配慮等に視点をもたせて参加させるなど、つなぐことを意識した指導を心がける。
--

各教科及び外国語活動との関連 各教科等と特別活動はお互いに支え合い、補い合う関係にある。特活マインドを活かし、受動的で平寂に陥りがちな学習活動を能動的な学習活動へと変換させる。	道徳との関連 「自己の生き方についての考えを深め」をキーワードとし、特別活動の具体的な活動場面面で道徳で培った道徳的な心情や判断力がいかなされる実践の充実をはかる。	総合的な学習との関連 特活の特質と総学目標の相違及び自主的、主体的態度の共通点に留意して関連学習を計画すること。 「保育園との交流活動」「水園画体験活動」等	生徒指導との関連 「個性の伸長」(社会的な資質や育成)の面からも関連は深い。またキャリア教育、規範意識の形成の面での連携も大切にす。児童会目標と生徒指導の目標との相違をリンクさせる。
--	--	---	---

地域社会・家庭との連携 ・保育園との交流活動(予定)・宿泊学習・ベクトルボールキャップ収集活動 ・水園画体験活動・川の観察・小中連絡会
--

7 活動の実態

(1) 議題 「『なかよし集会』・(原案)の修正・決定」と
 「11月のめあての具体的な達成方法」の報告をしよう

(2) 本時の活動内容とその意義

児童会活動は、学校の全校児童をもって組織するが、本校ではその運営を主として高学年児童が行っている。それは、高学年になると学校への所属感も高まり、集団的な活動の経験も増し、他のグループと協力して集団生活の向上発展を図ろうとする態度も身についてくるからである。さらに、運営にかかわらない中・低学年の夢も大切に「全校的な視野」にたった活動も可能になってくると考えるからでもある。

高学年児童がそうしたよさを十分に発揮し、全校児童が協力してよりよい学校生活を築いていくためには、一人一人の児童が「こんな学校にしたい」という夢を持ち、考えを出し合い、お互いのよさを生かし合って実践し、問題を解決していくことが必要である。そのためには、学級における指導が児童会活動に大きく影響を与えることから、学級活動で自発的・自治的活動の体験を十分味わわせるとともに内容面で児童会活動との関連を図り、学校運営に協力している実感を味わわせることが必要であると考えられる。

また、課題を解決していく際には、高学年児童だけではなく、全校の児童が協力し合うことが大切であり、年齢の異なる児童同士がお互いのよさを生かしあえるように配慮しなければならない。さらに、児童にとってより新鮮でダイナミックな児童会活動にしていくために、地域の行事に参画していくような活動内容とその範囲の拡大が望まれる。また、総合的な学習や他教科・領域との関連を図っていくことによっても、従来の児童会活動がよりダイナミックな児童会活動へと変容し、子どもたちの夢も大きくふくらんでいくことと考える。

このような思い「全校児童が協力して、より楽しい学校生活を築く児童会活動」を具現化するために、本校では3つのロングの児童集会【～一年生を楽しく迎える～ウキウキ集会】【～人権の大切さを知ろう～なかよし集会】【～六年生の卒業と中学校への入学を祝う～輝きの集会】とショートの子集を5回行っている。

また、学校の生活づくりに参画する態度や自治的能力を一層高めるようにする目的で【児童計画委員会による仕事分担と司会進行】で運動会や学習発表会の運営に協力している。

代表委員会では児童会が計画した毎月の月目標を達成する具体的な方法を各クラスで話し合い、その報告と振り返りを毎月行っている。

今回の代表委員会では、『なかよし集会』の原案を修正・決定する。『なかよし集会』の企画や運営を担当する一連の活動は、異学年との絆を強めたり、川崎東小学校の一員としての所属感や連帯感を感じたりすることができるのと同時に、仲間を大切にしながらよりよい学校生活をめざそうとする意欲をも育むことができる有意義な活動と考える。

(3) 特別活動と児童の実態

本校は学級数13学級（含：支援学級2）児童数231名の中規模校である。特別活動にかかわる実態としては、

クラブ活動：4年生～6年生で構成され、クラブ数は7、毎月第3、4火曜

日に実施（60分）異学年交流を意識する意味でも、活動終了時に3つの学年が向かい合って振り返りを行うようにしている。

委員会活動：5、6年生で構成、委員会数8）毎月第1週火曜日に実施。各委員会が独自に企画運営するイベントが多数ある。代表委員会は、毎月の第2火曜日6校時に実施、月目標の具体的な達成方法の報告と振り返りは、昼休みのミニ代表委員会で対応している。

児童の児童会活動への参画の様子は非常に積極的で、特に委員会活動では、各委員会独自のイベント活動を積極的に企画運営し、楽しい川崎東小学校を目指して自主的に生き生きと活動する姿が見られる。このように児童の手で運営される積極的なイベント活動や集会活動の経験は、下学年児童への思いやりを育み、6年生への尊敬やあこがれを生み出すなど、児童の縦のつながりと絆を深くしている。さらに、各委員会へは、毎年蓄積している活動実績ポートフォリオを利用して、さらに積極的な委員会活動の展開を促しているところでもある。

代表委員会では、各学年の代表委員（3年～6年）を完全輪番制にしているため、話合いの形式や形態、進め方が各学級の学級会へのよいお手本となっている。話合い中は、児童運営委員が、3、4年生への原案の見方などアシストができる態勢をとっており、さらに机脚配置の工夫により上学年が下学年のお世話ができるようにもしている。また、次の代表委員や1、2年生の見学参加もできるようにしている。

今回、話し合われる議題では、各学級と各委員会から出される原案の修正・決定を行う。

（4）指導にあたって

① 事前

4月に提案した、「川崎東小学校が楽しい学校になるための毎月のめあて」をもとに11月のめあて達成へ向けて、学級としての具体的な取り組み方を報告するが、各クラスの取り組みがより確実に達成できるように、児童一人一人に具体的な方法を自己決定するように前回の代表委員会でも助言している。

『なかよし集会』の提案については、『なかよし集会』を各委員会が協力して運営できるように、そして、5、6年児童が高学年としての責任感や学校への所属感をより感じさせるために、児童計画委員会で提案理由やめあて、内容を考え原案作成を行った。レクリエーションの希望調査の内容や役割分担についても話合い、原案にその内容を盛り込んだ。各委員会からのお知らせは、内容が多いため、あらかじめプリントにまとめておいた。

また、次回代表委員会の議題内容を検討し決定した。議長グループでリハーサルと黒板作りを行った。提案者を交えて議長団と原案の修正・決定の最終リハーサルを行った。この時に、提案者には原案の棒読みではなく、伝える相手を意識して、内容を補足しながら提案するように助言を行った。また、議長には話合いの流れを予想して、対処の仕方を十分に考えておくように助

言を行った。

② 本時

本時の代表委員会参加への課題意識が高まるように、各学級代表の児童は事前に11月のめあての具体的な達成方法を決定して話合いに参加している。各クラスの具体的な達成方法を代表委員全員にしっかりと伝えることができるよう援助・支援する。

また、『なかよし集会』の計画についての話合いの適切な場面で、異学年のお世話をしたり、議長の発言に反応したりして、協力しながら進め、集団決定できるようにする。

③ 事後

代表委員会終了後、低学年に原案の説明に行く。また、ポスターの制作希望者には用紙を配付する。立候補により作成されたポスターは、運営委員会児童が校内に掲示する。

そして、なかよし集会で行うゲームについては、ゲームの希望について集約を行い、児童計画委員会で後日決定する。

なかよし集会当日までは、各委員会ごとに分担された準備を行い、当日に備える。

『なかよし集会』終了後には、児童計画委員会で振り返りを行う。振り返りの中では、成果と課題を報告し、お互いの活動を認め合えるように、活動支援を行う。また、協力できたことと頑張りぬいたことを大いに称賛し、確かな実感と満足感を感じさせながら、次の集会につなぐ。

その後、1月の代表委員会と校内放送でそのふりかえりの結果を報告し、次の集会へ活かしていくとともに高学年児童には運営に参画し、成功させたぞという成就感と自己有用感をより多く味わわせ、次の活動へとつないでいきたい。

(5) 目標

- 代表委員会への参加と『なかよし集会』へ児童会が積極的に協力する提案を通して、川崎東小学校への所属感や連帯感を感じるとともに、よりよい学校生活をめざそうとする。 (関心・意欲・態度)
- 代表委員会の活動がみんなで楽しい川崎東小学校をつくっていくことへつながるとわかり、『なかよし集会』の提案を通して、活動の価値や意義を考えることができるとともに、代表委員として、原案に込められた思いや願いを、学級へ正しく伝えることができ、話合いの適切な場面で質問したり、意見を述べたりして、自分の役割に責任をもって協力しながら会を進めることができる。 (思考・判断・実践)
- 議題を決定していくための話合いの手順が分かるとともに、『なかよし集会』へ積極的に協力する児童会活動が、楽しい川崎東小学校を目指し学校生活の充実と向上へつながることを理解できる。 (知識・理解)
- 11月のめあてを達成するための各クラスの具体的な達成方法を考えて代表委員会へ臨むことにより、代表委員会へ課題意識をもって参加できるとと

もに、代表委員会ノートを利用して、10月の具体的達成方法をふりかえる評価活動を行い報告し合うことができる。（言語能力にかかわること）

(6) 指導計画

①事前の活動（児童運営委員会）

児童の活動	教師の指導と援助	日時
①児童計画委員会としてなかよし集会のレクリエーションの内容や役割分担について話し合い、『なかよし集会』の原案を作成した。	<ul style="list-style-type: none"> 『なかよし集会』を各委員会が協力して運営できるように、児童計画委員会で提案理由やめあて、内容を考え原案作成を行った。 相手意識にたった読みやすい原案作りを助言した。 	11月6日 昼休み～
②次回代表委員会の議題内容を検討し決定した。 議長グループでリハーサルと黒板作りを行った。	<ul style="list-style-type: none"> 各委員会からのお知らせを集約。 提案者には原案の棒読みではなく、伝える相手を意識して、内容を補足しながら提案するように助言する。 	11月9日 昼休み～
③提案者を交えて議長団と原案の修正・決定の最終リハーサルを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの流れを予想して、対処の仕方を十分に考えておくように助言する。 	11月10日 昼休み～
④代表委員会を開き、原案の修正・決定今月のめあての具体的達成方法の報告、各委員会の提案、連絡を行う。		11月13日 ミニ代表委員会 (昼休み) 11月13日 6校時 本時

②本 時

ア 本時のねらい

- 代表委員会の活動がみんなで楽しい川崎東小学校をつくっていくことへつながるとわかり、提案された活動の価値や意義を考えることができる。（思考・判断・実践）
- 代表委員として、決定した内容を学級へ正しく伝えることができるとともに、話し合いの適切な場面で質問したり、意見を述べたりして、自分の役割に責任をもって協力しながら会を進めることができる。（思考・判断・実践）
- 今日の話合いのめあて

「話：聞く人に聞こえるように大きな声ではきはきと8の字を使って発表しよう。」

「聞：話している人の方を向いてうなずきながら聞こう。」がわかり、今日のめあてに添ってふりかえる評価活動を行うことができる。

(言語能力にかかわること)

イ 指導上の留意事項

○ 事前に11月のめあて達成へ向けて、学級としての具体的な活動内容を決定してから代表委員会へ臨むよう、各担任へお願いしている。

○ 児童が自主的な活動内容を逸脱しそうな場合は、適宜、適切な指導を行う。

※ 上記のように、ねらいにかかわる視点をもちながら活動を見守り、最後「先生の話」の中で今後の活動がより意欲的になるように、今日の代表委員の頑張りやよさに着目した評価を行う。

事後においては、振り返りを行い、成果と課題を報告し合う活動を通してお互いに認め合えるように、活動支援を行う。

協力と頑張りぬいたことを大いに称賛し、確かな実感と満足感を感じさせながら、次の活動につながるように常にポジティブな評価活動を行いたい。

ウ 評価

① 個人の変容に関する評価

○ 代表委員会活動がみんなで楽しい川崎東小学校をつくっていくことへつながるとわかり、提案された活動の価値や意義を考えることができたか。(思考・判断・実践)

○ 学級へ正しく伝えるために、話合いの適切な場面で質問したり、意見を述べたり、反応したりして、自分の役割に責任をもって協力しながら会を進めることができたか。(思考・判断・実践)

○ 今日の話合いのめあて

「話：聞く人に聞こえるように大きな声ではきはきと8の字を使って発表しよう。」

「聞：話している人の方を向いてうなずきながら聞こう」

がわかり、今日のめあてに添ってふりかえる評価活動を行うことができたか。(言語能力にかかわること)

② 集団の変容に関する評価

○ 話合いの適切な場面で、異学年のお世話をしたり、議長の発言に反応したりして、協力しながら進め、集団決定することができたか。

(思考・判断・実践)

③ 事後の活動予定

児童の活動	教師の指導と援助	日時

<ul style="list-style-type: none"> ・低学年に原案の説明に行く。 ・なかよし集会でのゲームの希望を受け付ける。 ・ポスターの立候補を受け付ける。 ・ゲームの希望について集約をし、児童計画委員会で最終決定する。 ・ポスターを提出してもらい、校内掲示をする。 ・『なかよし集会』を行う。 ・児童計画委員は集会の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な部分だけを分かりやすく説明する。 ・ポスターについては立候補数にはこだわらずに描いてもらう。 	<p>11月14日 朝の会 昼休み～</p>
		<p>11月24日 昼休み～</p>
		<p>11月27日 昼休み～</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・成果と課題を報告し、お互いの活動を認め合えるように、活動支援を行う。 ・協力と頑張りぬいたことを大いに称賛し、確かな実感と満足感を感じさせながら、次の集会につなぐ。 	<p>12月1日 3・4校時</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターの回収を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見本のポスターを貼り替える 	<p>12月4日 昼休み～</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・1月の代表委員会でなかよし集会の振り返りについてを報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを集計し、次回の集会に活かす。 	<p>1月23日</p>

④本時活動展開計画

【児童運営委員会が本時代表委員会の事前活動を行う際に指導する内容】

第7回 代表委員会の計画 平成29年11月13日（月）第6校時	
議 題	<ul style="list-style-type: none"> ○「10月のめあてのふりかえりと11月のめあての具体的達成方法の報告をしよう」 ○各委員会からのお知らせやお願い ○『なかよし集会』原案の修正・決定
提 案 者	○児童運営委員会
提案理由	<ul style="list-style-type: none"> ○12月の第一週目は人権週間なので、人権とは何かを知り、人権についてみんなで考える機会を持ちたいから。 ○義務や権利の大切さを学習し、人権や平和と向き合うことで、さらに意識を高めたいから。 ○レクリエーションを通して、全校と関わり合う楽しさを感じ、絆を強めたいから。
話合いのめあて	<p style="text-align: right;">（キーワードは ～たいから）</p> <p>「話：聞く人に聞こえるように大きな声ではきはきと8の字を使って発表しよう。」</p>

「聞：話している人の方を向いてうなずきながら聞こう。」

(キーワードは ～よう)

役 割 議 長 (〇〇 〇〇) 副 議 長 (〇〇 〇〇)
ノート書記 (〇〇 〇〇) 黒板書記 (〇〇 〇〇、〇〇 〇〇)
提 案 者 (〇〇 〇〇、〇〇 〇〇)

主な活動内容	教師の指導・援助と本時の留意点
1 はじめの言葉	・議長団に大きな声ではっきり短い時間で行えるように助言する。
2 めあての確認	・【理由をつけ、みんなに聞こえるように発表する】視点を代表委員に与えるように議長へ助言する
3 10月のめあてのふりかえり (ミニ・6校時) 11月のめあての報告 (ミニ・6校時)	・【めあての紙がみんなに見えるように、聞き取れるように発表する】視点を代表委員に与えるように議長へ助言する
4 『なかよし集会』の計画の 修正・決定 (6校時)	・まず訂正をしてから、提案を始めるように助言する。 ・提案者へは、内容について補足説明を行いながら話し合いを進めるように助言する。
5 各学級から	・質問に答えられないときは、教師に聞きに来るように指導する。
6 各委員会から	・お願いの内容の解決方法で、議長判断がつかない時は、教師に 相談するように指導する。
7 ノートに書く時間	・あらかじめ提出されていない委員会の発表がある時は、最後にその委員会に発表させるようにする手順を助言する。
8 代表委員会のまとめ	・ノートへ書く内容を伝えるように議長へ助言する。
9 めあてのふりかえり	・ノート書記に本時の話し合いを簡潔にまとめて、わかりやすくみんなに伝えるように助言する。
10 先生方から	・めあてにそった評価活動をするように助言する。
11 今日の活動評価	・意見発表にがんばった児童や発表の仕方に気をつけた児童に対して賞賛を行い、以後の活動への意欲を喚起したい。
12 終わりの言葉	・代表委員の頑張りに着目した活動評価をするように助言する。

※ 児童運営委員は代表委員会終了後に、
本日の代表委員会をふりかえる活動を行う。

資料

① 代表委員会の机脚配置の工夫と名前札

机の配置にも工夫が必要になる。写真のように各クラスの代表委員の座席を6年生の横に3年生、その横に5年、4年のように配置し、中学年のアシストを行う。

また、児童運営委員会（計画委員）児童を中学年児童の横に座らせてアシストを行うことにより、より一層活動への責任感と思いやりが増す

代表委員の名前札には、必ず名前を書き込めるように工夫することが大切で、そのことが代表委員としての自覚を促すことにつながる。また、組織表にはクラブ長や委員長名を記す。代表委員会では、指名をする際に「〇年〇組〇〇さん」のように必ず名前呼び、代表委員としての自覚と所属感を高めるようにする。



【写真1】3年生にアシスト活動を行う児童運営員



【写真2】代表委員会前に書き込む



【写真3】クラブ、委員会の組織表

② 低学年の代表委員会への見学参加と低学年への代表委員会の内容の伝達

低学年児童が児童会活動に関心をもつように、楽しい児童集会の原案を簡易な言葉に代えて説明に行ったり、委員会からのお願いやイベント情報を代表委員会の翌日、各教室に伝達に行ったりする。

また、代表委員会への見学参加希望を募り、見学参加してもらおう。本年度は、児童運営委員会の子ども達によるイベントで1年生に代表委員会を経験してもらった。このような取り組みを続けることで、児童会への関心が高まるとともに、学級での話し合い活動も活性化する。



【写真4】低学年教室で代表委員会の内容をお知らせする。



【写真5】1年生による議長・副議長体験の様子と説明をする児童運営委員

③ 各クラスの取り組みが見える児童会掲示板の工夫

低中高、それぞれのクラスが、今月はどんな取り組みをしているのかがひと目で分かるような児童会掲示板の工夫を行う。それが、楽しい学校づくりを目指す児童会活動への関心を高め、連帯感と意欲を生み出す事につながる。

※ 児童会掲示板は、常に新しい情報を全校児童に届ける動いている掲示板でなければならない。

児童会日より、各委員会のイベント情報、集会原案はもちろん、本校では環境ボランティア委員会のペットボトルキャップの現在数も分かるようになっている。



【写真6・7・8】児童が必ず通る場所に設置する

※ 各学校の取り組みに違いはあるだろうが、毎月の月目標を各クラスが具体的にどのような方法で達成しようとしているのかがひと目で分かるように掲示する。

それは、児童一人一人が目標を達成するために「こうする」という自己決定を促す事にもつながる。



【写真9】市販のファイルを利用する

④ 各代表委員が必ず発表できる場の設定

全ての代表委員が、一度は発表できる場を設定するために、今月の児童会目標を達成するため各クラスで決定した具体的な取り組み方法を、全員の前で報告する。

また、もう一人の代表委員は先月の取り組みの振り返りの報告をする。

このような工夫により各代表委員は自己効力感を感じるとともに、この代表委員会に必要な存在なんだという自己有用感を感じることもつながる。

これらの経験がクラスでの話し合い活動への積極的発言につながる。



【写真10】具体的な達成方法を報告する3年生児童

※ 発表している下学年をしっかりと見て聞いて大切にする。

発表する人とその内容をしっかりと聞き取ることは、話合いの基本中の基本である。

このように、代表委員会の中でも支持的な風土を醸成することが大切で、これらの様子をお手本に、各クラスでの話合いが展開される。

また、高学年児童へのあこがれも生み出される。

8 研究のまとめ

代表委員会での話合いの進め方を代表委員会の議長団に指導し、基本的な話合いのスタイルとして毎月の代表委員会で定期的実践し、輪番で参加する各クラスの代表委員及び、学年代表として参加する担任教師に、そのオーソドックスな話合いのスタイルを伝達できた。また、毎月の児童会目標を達成するための具体的な取り組み方法を各クラスで定期的に話し合い、話合い活動を少なくとも月1回行うことができた。また、児童は話合い活動の経験を積み重ねることができた。

9 成果と今後の課題

- 代表委員会での話合いの方法を議長団に適切に指導し、話合い活動の基本的なスタイルとして各代表委員に示すことで、各クラスに話合い活動の方法を伝達することができた。また、各クラスの代表委員を輪番で出席させることにより、年間を通してほぼ全ての児童に代表委員会を経験させることができた。
- 低学年児童には代表委員会への見学参加を募ったことにより、話合い活動への意欲を喚起することができたとともに、そのレディネスを形成することができた。
- 高学年児童には代表委員会での机脚配置の工夫により下学年児童への思いやりの心を育むことができた。特に6年生児童は、各委員会でたくさんのイベントを計画実践し、全校児童に喜んで貰えたり、教師からの積極的な言葉による評価をして貰えたりしたことにより、大きな達成感を味わうことができた。また、活動途中で感じる事ができた自己有用感や自己効力感は個々の自尊感情を高めることにもつながり、以後の活動での積極的行動や責任感をも生み出すことにもつながった。
- 高学年を中心に、月目標の具体的な達成方法を話し合う活動を、話合い活動(2)の題材として捉え、個への自己決定にまで結びつけていく話合い活動にすることができた。これを低・中学年へと広げてことも次年度の課題である。
- 話合いの経験をいかし、学級内の諸問題を議題として取り上げる自発的な話合い活動へと発展させていけるかが今後の課題である。